

トピックス 2005年 中期

1 生理不順

2 不妊症（その1）

3 不妊症（その2）

4 帯状疱疹

生理不順についての症例

1. 初潮以来出血の止まらない20歳代前半の女性

この女性は、10歳代前半に月経が始まって以来、現在までずっと少しずつ出血していて、常に生理用品をはずせない状態が続いていました。

当院へは交通事故の後遺症で腰・肩等が痛むことが多く、その治療のため来院されていました。治療を継続する間に、時々心臓が痛くなり少し胸が苦し状態て来院されたことがありました。

問診の中で「子供の頃から時々心臓が痛くなることがあります。それから、生理が始まってから出血が止まらずいつもナプキンをつけたままです。赤ちゃんは、諦めています」とのことでした。

「諦めたら終わりですよ。それらも一緒に治療していきましょう。治りますよ」と励ましつつ治療を続けました。苦しかった心臓の痛みが、治療によって楽になったことも、少し信用された一因かも知れませんが。

当初、週2回の治療からはじめました。継続していくうちに、時折出血が止まる日が出てきました。その後、治療を週1回に変え継続治療しました。今では、無事赤ちゃんを授かり、1児の母親となっております。

2. 1年に1回程度しか月経のなかった30歳代前半の女性

この女性は、高校生の頃から生理不順になり、20歳代になってから、更に生理になる回数が減り、1年に1回程度になってしまったそうです。婦人科にしばらく通い、投薬を受けましたが、期待するほどの効果が得られず、通院をやめられたそうです。

当院へは首から肩・上肢にかけての痛みで来院されました。治療を継続していると、肩・上肢の痛みが和らぐと共に、月経が始まったのです。

「今までは、婦人科での薬を使ったときのみ出血があったのに、もうしばらく服用していないのにどうしてだろう。鍼をしているからですか」と尋ねられました。「鍼をしていると、体が変わり、自分自身で悪いところを治していくんですよ。だから生理が始まったんです。それじゃ、定期的に生理がくるように治療を続けていきましょう」と答え、今では定期的に生理がくるようになっています。この方も、かなり強い冷え性で、来院当初は、氷にでも触るような非常に冷たい手・足でした。現在では、その頃の面影は全くなっています。当院へは、今でも月1回程度の割合で来院されています。

この症例は、両極端な事例でしたが、治療を継続していくことの大切さを教えてください。長年患ったものを治していくためには、あせらず、患者さんと共に良い状態を継続させて行くこと。その結果として、患者さん自身が治す力を高めていくことなのです。結果を早く求めがちですが、時間をかける必要のあるときもあるようですね。

私自身の反省点として、問診の大切さを再度教えられました。今後の臨床に役立てて行きたいです。

不妊症についての症例

不妊症の症例を今回と次回（7月中旬頃）に分けて載せたいと思います。医学的に不妊症と言うには一定の基準があると思いますが、ここではなかなか子供に恵まれない方も含めて載せたいと思います。

今回は、自然な妊娠が難しく体外受精を受けられた方を、次回は流産の経験をし、なかなか妊娠出来ない方の治療例を載せたいと思います。

1. 卵管采がうまく機能しない30歳代前半の女性

産婦人科で体外受精をするので、鍼治療も併せてやって何とか妊娠したいと紹介されてきました。

問診しますと、子宮が変形していて妊娠しにくいと医師に進められ手術、その後卵管采の変形も発見され体外受精を選択したとのことでした。

「わかりました。出来るだけのことをやりましょう。鍼治療を継続してください。そうすると、体が変わってきて妊娠を助けることが出来ますよ。また、体外受精に向けての医師の治療・受精卵を体内に戻してからの治療は、結構苦しいですからその緩和にも役立ちます。一緒に頑張りましょう」と励ましつつ、

治療を開始しました。

当初、週3回の治療から始めました。

卵子を取る前や受精卵を体内に戻す際等、注射や薬等によってお腹が張り、苦しい状態で何度となく来院されました。その度に、鍼治療によってその張りや痛みを楽にし、体質改善に努めていきました。

その結果、子宮内膜の厚さが9ミリから11ミリに厚さをましました。「今まで何度も検査をしてきましたが、こんなに厚くなったのは初めてです」とびっくりされました。「体が変わってきたんですね。期待しましょう」と励ましつつ、治療を継続しました。

受精卵を戻してから2週間ほどたって妊娠がわかり、喜びを共にしました。

「これからが大事になります。大切にしていきましょう」

その後治療を週2回、更に週1回にし継続しました。つわりも治療によって軽減し、その後安産灸を施しつつ妊娠後期まで治療をさせていただきました。出産は遠方の実家に戻られ、無事、元気な男の子を出産されました。

2. 全く生理の無い30歳代前半の女性

「受精卵を3週間後に戻しますが、間に合うでしょうか」と紹介を受けて来院されました。

問診しますと、「生理が全く無いのですが、どうしても子供が欲しくて。こちらで妊娠された方がいらっしゃると聞きました。お願いします」とのことです。

「時間があまりありませんが、精一杯やってみましょう。週3回の治療となりますから、来てください」

当初、冷えていた体が短い期間のわりに温まり、変化していることがわかりました。また、産婦人科での治療により、体調がきつい状態になりましたが、鍼治療によって楽に過ごすことが出来ました。「お腹が膨れ、張って痛かったのに、鍼をすると腫れも、張りも楽になるんですね。不思議ですね」と感謝されました。

受精卵を体内に戻し、無事妊娠となりました。

その後、つわりが始まり継続治療して、その期間を楽に過ごすことが出来ました。途中、事情もありしばらく治療を休まれ、臨月に入り再来院されました。出産予定日が目前になっても、陣痛が来ず、お医者さんからは、「もうしばらくかかりますねと言われました」と。

「陣痛促進穴に反応が出ていますから、もうすぐ産まれますよ。それじゃ、治療しておきましょう。明日か明後日には強い陣痛が起こって産まれますよ。強い陣痛が起きて間隔が短くなったら、背中の中のはずして病院に行ってください」

二日後に元気な男の子を、無事、出産されました。

普段は、体質改善を主眼において治療を進めております。すなわち「肥えた畑に捲かれた種は、強い根をはり、しっかりと生育していきます。でも、茨の張った畑や養分の少ない畑に捲かれた種は、根を張ってもすぐに枯れてしまいます。あなたの体を肥えた畑に作り変えましょう」と例え話をしながら、鍼治療によって自然な妊娠を進めています。

しかし、体外受精によってのみ妊娠できる方もおられるのです。体外受精で妊娠できる可能性も決して高いとはいえないのが現状のようです。

その確立を、鍼治療（経絡治療）によって少しでも高めるために貢献できればと、この治療を通してあらためて感じました。

体質改善と共にお役に立てればと思います。

不妊症についての症例（その2）

30歳代前半の女性

当院へは、当初臀部痛で来院されました。問診しますと、「数ヶ月前に始めての妊娠で、8週目で流れてしまいました。腰から臀部にかけての痛みは、以前から頻繁にあります。鍼が怖くて今までは、マッサージを受けていましたが、こちらを紹介され思い切って来ました」「子供の頃からどちらかと言えば、体の弱い子供でした」とのことでした。

手・足は冷えていて少し湿っています。腹部も少し皮膚がざらつきが目立ち、湿り加減です。

「これだけ体が冷えて湿っていると、妊娠してもなかなか育ちにくいですよ。腰の痛みもそのためです。鍼で体質を変えますから、怖がらずに治療を受けてください」と話しつつ治療を始めました。数箇所鍼をしたら、「まだ鍼はしていないのですか」と尋ねられました。

「もう何箇所か鍼をしてますよ。大丈夫でしょう」

初回の治療を終え、痛かった臀部の痛みが取れ、冷えて湿っていた手に温かみが出、乾いた感じに変わり、びっくりされた様子です。

「こんな風に体は変わります。妊娠して元気に育つことが出来るように、治療を続けて行きましょう」

その後、継続して治療を行い、約半年ほどで妊娠することが出来ました。安産灸を施しつつ、8ヶ月くらいまで当院で治療を継続し、実家に戻られてからも、紹介した治療院で治療を受けられ、無事元気な男の子を出産されました。

当初は、鍼を非常に怖がっておられましたが、今では、全く微塵も感じられません。人との出会いの不思議を、特に感じられた症例です。「鍼は痛いから行かない」という人も多いと聞きますが、この女性も以前はそうだったそうです。ひとつの出会いを大切にしてみませんか。

带状疱疹についての症例

小学校4年生の女の子

4年生になり運動クラブに入ったが、市内でも強豪校のため練習がきつく、体に疲労がたまり、また入部間もないため精神的にも疲れた様子でした。喘息の治療に定期的に来院していましたが、疲れている様子が伺えました。そんな中、疲労がピークを迎えたのか、右の頬に湿疹のようなものが出来、皮膚科を受診したところ带状疱疹と診断されました。

皮膚科を受診後、当院に来院されました。

「带状疱疹と言われましたが、鍼でも治せますか」とたずねられました。診ますと右の頬から耳にかけて水疱が見られました。

「体が疲れきった時に出てくるものですから、よっぽど疲れたんですね。大丈夫ですよ。鍼で疲れきった体を回復させて治しましょう。免疫力が下がったため、体内に潜伏していたヘルペスウイルスが再活性したのが带状疱疹ですから、免疫力を元のいい状態に戻してあげれば治ってしまいますよ。しかも、鍼治療をしていると水疱の痕も残りません。女の子ですから、特に大事ですね」

治療を始めて3回で完治となりました。

鍼治療で免疫力を引き上げ、患部をお灸で狙いますと、早く完治させることが出来、尚且つ痕跡を残さずに治癒に至ります。通常は2～4週間程で治癒と言われていますが、鍼灸治療を受けることにより免疫力が上がり、自らの力によって带状疱疹を治してしまいますので、もっと早く治癒に至ります。

鍼灸治療は、とかく整形外科的な症状にのみ効果ありと思われがちですが、このような症例にも効果があります。

皆様の鍼灸治療に対するイメージが、この例を通して少しでも変わっていただければ幸いです。